

天気も良く、暖かく穏やかな一日であったので、晩秋の彩りを満喫することができました。

常緑のセコイアと落葉のメタセコイアが交互に植えられていて、違いを観察するのに都合がよかったです。葉を触るとセコイアは硬く、メタセコイアは柔らかかったです。葉をよく見るとセコイアは互生、メタセコイアは対生になっていました。幹の様子も違いました。

カツラの木のある辺りから、何やら甘い香りがしてきました。カツラの枯れ葉を拾って匂いを嗅ぐと私はわたあめの匂いを感じ、またある人は醤油の匂いだと感じると言っていました。人の感覚は人それぞれなんだと面白く思いました。

温室もいろいろな植物を見ることができ、大変勉強になりました。季節を変えて、また訪れてみたいです。きっと絶滅危惧種の水生植物に出会えると思います。

伊澤 卓也



初めて研修会に参加させていただきました。ピクニックに最適な気温と青空のもと、大変楽しく参加させていただきました。

メタセコイアとセコイアの大きな違いについてのお話が、とても印象的でした。行きたいと思っていて、なかなか行けずにいた植物園に行く機会をいただいて、ありがとうございました。

相蘇 好

研修会は暖かい好天に恵まれ、太陽を背に翅を開くウラギンシジミとムラサキシジミを大勢の会員の皆様に観察していただくことが良かったです。

福田 晴男

好天に恵まれ、抜けるような青空のもとで第3回研修会が実施されました。

植物園の入口では、赤く色づいたメタセコイアの並木が青空に映えて圧巻でした。それに対し、セコイアは常緑であることも知りました。

研修部長の伊澤先生を中心に大変興味深い解説をしていただきました。園内では、蝶などの昆虫や野鳥も観察することができました。蝶については、福田先生から詳しいお話を伺いました。

楽しく有意義な半日を過ごすことができました。ありがとうございました。

丸山 雅弘

～セコイア・メタセコイアの並木道から感じたこと～

筑波実験植物園に入って直ぐの所にメインストリートがあった。このメインストリートの両端には、セコイアとメタセコイアが交互に規則正しく数十 m 先まで植えられ、見上げるばかりの高さにまで悠々と並木となって育っていた。

セコイアは常緑・メタセコイアは秋の紅葉と視覚的にも区別できることから、他の違いは・・・と興味がそそる。葉の付き方を見ると、セコイアは互生・メタセコイアは対生の違いが、そして幹は、太さと肌が違っていた。これは、きっと実験植物園の設置当初(1976年)から計画的に、そして教育的な観点も踏まえて植えられたものだろうと想像がつく程だ。

更に、セコイアの原産地はアメリカ合衆国で、メタセコイアの原産地は中国だ。

2025年の現在、世界情勢としての両国の関係から、両首脳にはこの筑波実験植物園のメインストリートを歩かせたいものだ、と、思考が昇華していった。

大門 康雄



今年度を締める最良の会員研修会になりました。穏やかな小春日和、そして、私にとっては初めての国立科学博物館附属筑波実験植物園の見事さ、素晴らしい紅葉等に恵まれ、大満足の1日でした。

まず、昨年度の小石川植物園と同様、立派なソテツに出迎えていただきました。そして、メタセコイアセコイア・ヌマスギの違いにも改めて感激しました。カツラの甘い香りに包まれながら絶滅危惧植物保存の取り組み、温室での熱帯植物の体感、さらに3m程の大木に成長したポインセチアにびっくり等晩秋ならではの自然を皆で大いに楽しみました。

そして最後は、恒例の少し遅めの食事会?での懇親も十分楽しむことができました。担当である研修部の皆さん、今年度も本当にありがとうございました。次年度もよろしく願いいたします。

中村 守

